

団体名 社会的責任投資フォーラム (JSIF) 発表者氏名 荒井 勝

1. 貴団体の活動内容について

欧米で積極的に行われている社会的責任投資 (SRI)、ESG (環境・社会・ガバナンス) 投資を、日本で普及・発展させるための活動を展開。SRI・ESG 投資に関係する人々、機関、また興味を持つ人々にインタラクティブな意見交換、研究する場を提供するとともに、年金基金や運用会社などの機関投資家による取り組み、投資情報提供会社による情報提供、企業による情報開示の向上に資し、SRI・ESG 投資の健全な発展を通じて持続可能な社会を構築することを目指している。

2. 社会的責任投資 (SRI)、ESG 投資に関する詳細について

世界の責任投資は欧州が 870 兆円、米国が 370 兆円の規模となっていますが、日本は 1 兆円に満たず、日本の取り組みは大きく遅れていることが、ここ数年で明らかとなっています。2006 年に国連責任投資 (PRI) が出来て以来責任投資の中でも ESG 投資が急拡大しており、世界全体で 617 兆円の規模となっています。(日本の株式市場は 450 兆円規模)

ESG 投資は通常の投資決定方法に加えて、環境 (E)、社会 (S)、ガバナンス (G) を考慮する投資手法ですが、これまでの責任投資とは異なり、一部の専門の投資家や調査会社が専門的に行うものではなく、投資と企業の中長期的な価値を考慮する投資手法として、世界の公的年金基金中心に広がっています。

こうした世界の流れに大きく出遅れた日本ですが、安倍政権、金融庁、経産省などによる積極的な取り組みにより、昨年後半より大きく変化する兆しが見られるようになってきました。今年 2 月には「日本版スチュワードシップ・コード」が導入され、5 月末で 127 の機関投資家が受け入れを表明しており、今後は企業に対してより積極的なエンゲージメントに取り組むことが見込まれます。また「コーポレートガバナンス・コード」の導入検討も進んでおり、今後 2、3 年で日本でも ESG 投資が拡大することが考えられます。このため、企業はこれまで以上に、国内外の投資家から ESG への取り組みについて問われるようになると予想されます。

人権にかかわる取り組みは、中でも大きな課題です。人権問題は社会的な違い、歴史あるいは文化的な違いが国や地域によってあるため、しっかりとした説明をすることが日本企業にとり重要になると考えられます。

3. 「POST2015 年課題領域における優先課題」との関連性について

関連あるテーマ	関連ある課題					
包括的な成長		繁栄と公平性				
人間のニーズと能力		教育	○	女性のエンパワーメントとジェンダー平等	○	健康 ○
資源の 3 要素	○	食糧・農業	○	水・公衆衛生	○	エネルギー・気候 ○
発展を可能にする環境		平和・安定		インフラ・技術	○	グッドガバナンス・人権 ○

#### 4. ビジネス（業界/企業）との関わりについて

さまざまなテーマの中から、自社にとり重要と考えられる課題を特定し、その課題に対する取り組みの方針、計画、取り組み結果を開示することが、投資家からは求められます。ネスレの取り組みは持続可能性の課題に加えて、CSVの観点での課題を特定して取り組んでおり、多くの日本企業にとって参考になると考えられます。

#### 5. 本プログラム参加企業へのコメント

「コー円卓会議」の本プログラムは、グローバルレベルで人権について幅広く検討する日本でも数少ない取り組みであり、参加することで自社の課題を明確にできることが期待されます。担当部署のみならず、組織全体で理解を共有することが課題と考えられます。

以上